

1 単元 かん字の学しゅう①

2 教科の目標

「書き順」「画の方向」「画の長さ」「画と画との間」「画のつき方・交わり方」「文字の中心」「文字の形」に気を付けて、漢字を丁寧に書くことができる

3 活用したICT

教材提示装置

4 活用したICTの工夫

- ・ 教師が実際に字を書く様子を提示する。
(教材提示装置)
- ・ 子どもが実際に字を書く様子を提示する。
(教材提示装置)
- ・ 子どもの書いた字を提示する。(教材提示装置)



資料1 活用したICT

5 実践の様子

① 教師による提示

テレビモニターに教師が字を書く様子を教材提示装置を活用して提示した。(資料1) 子どもたちは画面を見て、提示された字について、一画の長さや向きについて気付いたことを発表した。このとき、バランスを崩した字を書いたり、逆向きに画を書いたりすることで、子どもたちの興味を持続させるようにした。

② 子どもによる提示

活動の途中に机間指導を行いながら、子どもが実際に書いた字を提示して全体に紹介した。学習帳に書かれた文字は、実際には全体に紹介しづらいが、教材提示装置を活用することで、大きく画面に提示することができる。また、提示した子どもの字でよい点について発表させた。これにより、子どもの意欲を持続させ、最後まで意欲的に取り組ませることができた。

③ 子どもによる実演

さらに、机間指導する中で、右はらいなどをうまく書くことができる子どもを見つけ、実際に字を書いている様子を提示した。鉛筆の持ち方や力加減など言葉で伝えづらいことを、映像で提示することでよい手本となった。特に、子どもが提示する際は、教師の提示より子どもたちの注目度はとても高かった。

6 成果と課題

- 教材提示装置を活用したことで、「書き順」「画の方向」「画の長さ」「画と画との間」「画のつき方・交わり方」「文字の中心」「文字の形」などの中から、子どもがめあてをもちやすくなり、漢字を丁寧に書くことができた。
- 教材提示装置を活用し、必要な部分を拡大して提示することで、主に始筆と終筆の気を付けて書くことができた。
- 教材提示装置を活用して子どもの字を提示したことで、どの部分が特に難しいかを共有することができた。
- 画面に映し出されても、すぐに消えてしまうため、必要に応じて黒板にまとめておき、子どもが字を書くための基準を確認できるようにする必要がある。